

東海村社会教育振興基本計画 評価シート

【青少年担当】

事業			実績							実績							実績							
該当 施策	教育プラン 該当	リーディング プラン№	事業及び取組み項目	事業概要説明	目標指標	単位	令和4年度				令和5年度				令和6年度				令和6年度 中間値	令和8年度 最終値	担当G			
							目標値	実績値	達成率 (%)	自己評価	目標値	実績値	達成率 (%)	自己評価	目標値	実績値	達成率 (%)	自己評価						
1-1 1-2	○	(1)	とうかい子どもキャンパス事業	モノづくりやプログラミングなど様々な体験プログラムを通して知見を広める一方で、講義をする企業団体との信頼関係を構築しながら人材育成に努める。	開催講座の数	講座	25	38	152%	A	目標を達成することができた。子どもたちに多くのきっかけづくりの場を提供することができた。新規講座については9講座となり、子どもたちに新たな分野の講座を提供し、概ね定員を超える申し込みがあったことから、受講者のニーズにマッチしたと考えられる。	27	37	137%	A	目標を達成することができた。子どもたちに多くのきっかけづくりの場を提供することができた。新規講座については、6講座となり、子どもたちに新たな分野の講座を提供し、概ね定員を超える申し込みがあったことから、受講者のニーズにマッチしたと考えられる。	30	29	97%	A	目標を達成することができた。子どもたちに多くのきっかけづくりの場を提供することができた。新規講座については、7講座となり、子どもたちに新たな分野の講座を提供し、概ね定員を超える申し込みがあったことから、受講者のニーズにマッチしたと考えられる。	25	30	青少年
1-1 1-2	○	(1)	エンジョイ・サマースクール開催事業	夏季休業期間に行政、企業、団体等のあらゆる機関や施設が行う体験学習を一覧で紹介し教育の活性化と学習意欲の向上を目指しながら充実した夏季休暇の実現を支援する。	講座協力団体の数	団体	56	56	100%	A	目標を達成することができた。128講座を開催し、参加延べ人数11,222人（1日あたり約239人）が参加し、地域・団体・行政が丸となって、子どもたちに多くの体験活動を提供し、充実した夏休みの実現に努めた。	58	53	91%	A	概ね目標を達成することができた。151講座を開催し、参加延べ人数5,890人（1日あたり約125人）が参加し、地域・団体・行政が丸となって、子どもたちに多くの体験活動を提供し、充実した夏休みの実現に努めた。	55	48	87%	A	概ね目標を達成することができた。143講座を開催し、参加延べ人数6,978人（1日あたり約148人）が参加し、地域・団体・行政が丸となって、子どもたちに多くの体験活動を提供し、充実した夏休みの実現に努めることができた。	45	60	青少年
1-1 3-1		(1)	学校連携事業（ジョイント事業）	学習指導要領における学習のねらいを踏まえ、総合学習や社会科の授業において、ふるさとの歴史や地域資源、環境に興味・関心を深められるよう、展示・収蔵品や体験事業を活用した学習プランや学習教材を提供し、村内小中学校の教育活動との連携を図っている。	開催回数	回	20	26	130%	A	目標を達成することができた。延べ1,523人の児童の参加があり、学校と交流館が連携した体験活動により、東海村の歴史や環境等をより深く理解することで、郷土愛の醸成に努めた。	22	24	109%	A	目標を達成することができた。延べ1,483人の児童の参加があり、実際の物に触れたり、東海村の歴史や環境等をより深く理解することで、郷土愛の醸成に努めた。	22	14	64%	B	自然観察を行っていた場所が工事中で使用できなくなったことやインフルエンザ流行による中止などにより開催数が減ってしまった。学校のニーズを把握し、新たな教材や題材を提供できるよう学校との情報共有を密にしていきたい。	25	30	青少年
1-3	○	(2)	青少年育成村民会議補助事業	青少年の健全育成を図ることを目的とした補助団体として生涯学習課が事務局を担う。設立45年目を迎え、本部としては年代が異なる4事業を展開するとともに小学校区ごとにある支部では地域性のある行事を展開する。	自治会協力における一般会員の数	人	7,514	7,420	99%	A	概ね目標を達成することができた。1世帯300円の会費の徴収を自治会に依頼しているところであるが、年々会員数が減少傾向にある。会報やHP等で村民会議の活動を分かりやすく紹介するなどして周知に努め、会員獲得につなげたい。	7,520	7,321	97%	A	概ね目標を達成することができた。1世帯300円の会費の徴収を自治会に依頼しているところであるが、年々会員数が減少傾向にある。会報やHP等で村民会議の活動を分かりやすく紹介するなどして周知に努め、会員獲得につなげたい。	7,550	7,136	95%	A	概ね目標を達成することができた。1世帯300円の会費の徴収を自治会に依頼しているところであるが、年々会員数が減少傾向にある。R7においては、広報とうかいにおいて事業の紹介や会費の協力についての広報記事を掲載し、会費の確保に努めている。	7,600	7,600	青少年
1-3	○	(2)	高校生会補助事業	村内在住・在学する高校生で自主的・奉仕的に活動することで会員同士、多世代との交流を図りながら人間形成を図る。子ども会への派遣依頼はもとより多くの自主活動を展開。	高校生会員数	人	12	11	92%	A	概ね目標を達成することができた。会員の学年に偏りがあり、継続した会員数の維持に課題がある。行事を通して高校生の姿や様子を見せ、小中学生の興味関心を持ってもらうことで、会員獲得につなげたい。	12	7	58%	B	目標を達成することができなかった。コロナ禍の令和4年度の新規会員が集まらない状況であり、卒業生が抜けたことにより会員数が大幅に減少した。活動の様子や入会のメリットなどをHPや広報誌で紹介するなどにより周知に努め、会員獲得につなげたい。	15	17	113%	A	令和5年度末に広報とうかいにおいて特集記事を掲載し、高校生会OBの声や現在の活躍などを紹介するなど周知するとともに中学校の文化部に声をかけて交流会に参加してもらうなど高校生会の活動を体験してもらおうと会員確保に努めた。	15	15	青少年
1-3			東海村子ども会育成連合会補助事業	異年齢の仲間たちとともに遊びや研修活動をおして、より多くの体験活動を行いながら、「生きる力」を学び、「人の心」を理解し、大人としての基本を育む子ども会活動を推進するとともに、指導者の育成を促進する。	単位子ども会数	件	11	11	100%	A	目標を達成することができた。子ども会数は全国的にも減少傾向にあることから、現状維持を目標としている。子ども会育成連合会が開催する会議にオブザーバーとして参加することで事務局の支援に努めた。	11	11	100%	A	目標を達成することができた。子ども会数は全国的にも減少傾向にあることから、現状維持を目標としている。子ども会育成連合会が開催する会議にオブザーバーとして参加することで事務局の支援に努めた。	11	9	82%	A	目標を達成することができた。子ども会数は全国的にも減少傾向にあることから、現状維持を目標としていたが、R6については、2団体が減となった。子ども会育成連合会が開催する会議にオブザーバーとして参加することで事務局の支援し、R7においては、体験会の開催や学校に対する協力を求めるなど会員数の維持に努めている。	11	11	青少年

東海村社会教育振興基本計画 評価シート 【生涯学習担当】

事業							実績					実績					令和6年度 中間値	令和8年度 最終値	担当G
該当 施策	教育プラン 該当	リーディング プラン№	事業及び取組み項目	事業概要説明	目標指標	単位	令和5年度					令和6年度							
							目標値	実績値	達成率 (%)	自己評価		目標値	実績値	達成率 (%)	自己評価				
2-1	○	(2)	中央公民館講座開催事業	社会教育法第20条に規定されている、住民のために教養の向上、健康の増進、情操の純化、生活文化の振興に関する講座を開催する。	講座開催数 (延べ回数)	回	60	45	75%	A	教養、健康分野のほかに、生活課題に関する講座を実施。コロナウイルス感染症の制限がなくなったため、受付時の検温を不要とし、マスク着用は自己判断とした。	60	43	72%	B	教養、体育、家庭教育分野のほかに、生活課題に関する講座を実施。講座参加者が高齢者層に偏っているため、今後は多様な世代が参加しやすい講座を開催する。受講希望者が少ない講座を途中で打ち切ったため、全体的な開催数が減少した。	60	60	生涯
2-1			「東海村はたちの集い」の開催	20歳の節目を迎えた住民を祝い、同郷の友人、恩師等が一堂に会することで人と人とのつながりを生む機会を提供する等のために開催する。	対象者数に対する実参加人数の割合（参加率）	%	70	76	100%	A	コロナが5類感染症に移行したため、一部制で開催し、保護者同席を復活させた。	70	76	100%	A	オンラインも含め実行委員会を3回開催したほか、LINEの投票機能を使って実行委員との打ち合わせを行った。他課のシティブロモーションや広報業務に協力し、実行委員との連絡調整等を行った。警備会社と打ち合わせを行い、当日の会場内の安全確保のため体制を整えた。	70	70	生涯
2-2	○	(2)	中央公民館講座開催事業	社会教育法第20条に規定されている、住民のために教養の向上、健康の増進、情操の純化、生活文化の振興に関する講座を開催する。	自主グループ 指導者による 講座開催数 (延べ回数)	回	3	4	100%	A	篆刻（てんこく）体験講座を4回開催した。	3	2	67%	B	篆刻（てんこく）体験講座を2回開催した。今後は篆刻以外の自主グループからも講座開催に意欲のある指導者を探していく。	3	3	生涯
3-1	○	(2)	村花「スカシユリ」増殖事業	村花「スカシユリ」増殖事業を通じて村民の郷土愛をはぐくむ事業。村発足30周年を記念して村花としたスカシユリの自生地が少ないため、増殖事業を実施。	事業実施によりスカシユリが根付いた場所の数	所	3	3	100%	A	根付いた場所： なぎさの森、衛生センター、八間道路	4	10	250%	A	根付いた場所： なぎさの森（1カ所）、衛生センター（1カ所）、八間道路（8カ所） R6年度は、ひとつの場所（八軒道路）に何カ所も植付け、根付いた箇所をカウントしたため、高い指標となった。	3	3	生涯
5-3	○	(2)	東海音頭保存会補助事業	1980年に村発足25周年に制定された東海音頭を保存継承する団体活動の支援。	会員数	人	50	46	92%	A	東海音頭の保存のため、研修会及び講習会の開催に関する事業、音頭指導の後継者育成に関する事業、音頭指導の派遣に関する事業等を実施。	50	41	82%	A	東海音頭の保存のため、研修会及び講習会の開催に関する事業、音頭指導の後継者育成に関する事業、音頭指導の派遣に関する事業等を実施。 課題は会員の高齢化による会員数減少。会員の高齢化による死亡が多かった為、会員数が微減となった。	50	50	生涯

東海村社会教育振興基本計画 評価シート 【博物館・文化財担当】

事業			実績					実績					令和6年度 中間値	令和8年度 最終値	担当G				
該当 施策	教育プラン 該当	リーディング プラン№	事業及び取組み項目	事業概要説明	目標指標	単位	令和5年度					令和6年度							
							目標値	実績値	達成率 (%)	自己評価		目標値				実績値	達成率 (%)	自己評価	
1-1 1-2			宇宙線ミュオンによる古墳探求プロジェクト推進事業	J-PARCセンター、茨城大学、東京都立大学との連携により舟塚古墳群2号墳の埋葬施設の存在を宇宙線ミュオンを活用して解明していく。宇宙線ミュオン測定器の制作から将来的な発掘調査を子どもたちが実施する人文科学・自然科学の教育プログラムとして実施することで、両分野の将来を担う「ひとつづくり」、サイエンスシティとしての「まちづくり」を推進するとともに文理融合型かつ地域一体型の新しい遺跡調査のモデルとして発信する。	ミュオンにコーフクラブ会員数	人	20	25	125%	A	目標を達成することができた。村内・村外問わず古墳（考古学）や物理が好きな子どもたちが意欲的に活動し、10月～3月の6回の講座によりミュオン測定器を制作した。	30	31	103%	A	目標を達成することができた。村内・村外問わず古墳（考古学）や物理が好きな子どもたちが意欲的に活動し、6月～3月まで全10回の講座を実施し、10月には令和5年度に制作したミュオン測定器を舟塚2号墳に設置し、11月～3月にかけて2台目のミュオン測定器を制作した。	30	30	博文
1-1 3-1	○		基本展示・特別展示事業	誰もがいつでも村の歴史や自然について学べるよう、歴史と未来の交流館において村所蔵の文化財を公開・活用した村の歴史や自然の特徴を展示する。	テーマ展示開催数	回	11	11	100%	A	通年展示の展示室2に加え、展示室1で8つのテーマ展を四季に応じて実施。企画展として夏季企画展「村松軌道展」を開催。	12	9	75%	A	通年展示の展示室2に加え、展示室1で6つのテーマ展を時期に応じて実施。企画展として夏季企画展「サイエンス×東海村×J-PARC展～せかいのは"つぶ"からできている～」をJ-PARCと共催。	12	12	博文
1-1 1-2 3-1	○	(1)	「とうかいまるごと博物館」実施事業	村内全域を博物館として捉え、東海村全体をまるごと体験し・遊び・学ぶことで、郷土への理解を促進し、郷土愛を育むとともに、魅力ある地域づくりに寄与する。	登録講座数	回	50	125	250%	A	交流館主催事業と協力団体主催との両輪で実施。交流館（文化財担当）主催は年30回を想定。令和4年度参加者数は30,786名。	65	119	183%	A	交流館主催事業と協力団体主催との両輪で実施。交流館（文化財担当）主催は年30回を想定。令和6年度参加者数は63,314名。	65	65	博文
1-1 1-2 3-1	○	(1)	「とうかいまるごと博物館」実施事業	村内全域を博物館として捉え、東海村全体をまるごと体験し・遊び・学ぶことで、郷土への理解を促進し、郷土愛を育むとともに、魅力ある地域づくりに寄与する。	歴史と未来の交流館研究員（まる博研究員）養成講座修了者数（累計）	人	27	23	85%	A	東海村内の歴史・自然に関する調査研究、情報収集及び資料収集を行う人材を村民の中から育成。現在のところ2期生（23名）が終了、現在3期生が受講中（R5.10～R6.12 9名）	33	31	94%	A	東海村内の歴史・自然に関する調査研究、情報収集及び資料収集を行う人材を村民の中から育成。現在のところ3期生まで（計31名）が終了。令和7年度は第4期生養成講座がスタート。	33	43	博文
3-2	○		史跡・文化財等調査管理事業 埋蔵文化財発掘調査事業	（史跡・文化財等調査管理事業） 史跡・文化財・彫刻・絵画等を適切に維持管理し保護を図る。また、村内に存在する文化財を調査し、保護・活用を図る。 （埋蔵文化財発掘調査事業） 村内遺跡の試掘調査や個人住宅の発掘調査を行い、埋蔵文化財の保護・保存と開発との円滑な調整や遺跡の記録保存を図る。	文化財調査件数	件	4	6	150%	A	開発等（住宅等の建設・太陽光発電設置）などによる、試掘・本調査の件数が増えたため、調査件数が増となった。 （試掘5件、本調査1件）	4	12	300%	A	開発等（住宅等の建設）などによる、試掘・本調査の件数が増えたため、調査件数が増となった。 （試掘10件、本調査1件）	4	4	博文
3-2	○		史跡・文化財等調査管理事業	史跡・文化財・彫刻・絵画等を適切に維持管理し保護を図る。また、村内に存在する文化財を調査し、保護・活用を図る。	研究紀要の発行	件	1	1	100%	A	交流館学芸員の研究成果をまとめて刊行。年1回発行。	1	1	100%	A	交流館学芸員の研究成果をまとめて刊行。年1回発行。	1	1	博文
3-2	○		史跡・文化財等調査管理事業	史跡・文化財・彫刻・絵画等を適切に維持管理し保護を図る。また、村内に存在する文化財を調査し、保護・活用を図る。	地域住民等との協働による史跡の活用・保全活動数	回	3	3	100%	A	真崎古墳群除草作業を真崎区自治会と協働で、権現山古墳除草作業を真崎区内班と協同で実施したことにより活動数が増となった。	4	3	75%	B	真崎古墳群除草作業を真崎区自治会と協働で2回実施した。権現山古墳除草作業を真崎区内班と協同で実施した。	4	4	博文
3-2			石神城跡史跡整備事業	平成29年に県指定史跡となった石神城跡。村民憩いの場としての石神城跡を守り、魅力を伝え、安全・快適に人々が過ごせる史跡公園を目指す。	現地見学会実施回数	回	1	1	100%	A	2月に石神城発掘調査現地見学会を実施。	2	0	0%	C	発掘調査の状況から、見学先に向かう通路が危険と判断したため現地見学会は実施しなかった。	2	3	博文

東海村社会教育振興基本計画 評価シート

【文化芸術・スポーツ推進担当】

事業							実績							実績			令和6年度 中間値	令和8年度 最終値	担当G
該当 施策	教育プラン 該当	リーディング プラン№	事業及び取組み項目	事業概要説明	目標指標	単位	令和5年度				令和6年度								
							目標値	実績値	達成率 (%)	自己評価		目標値	実績値	達成率 (%)	自己評価				
4-1	○	(2)	地域スポーツ指導者学校派遣事業	中学校部活動へ東海村スポーツ協会から指導者を派遣し、スポーツを通じた青少年健全育成、競技力の向上、教員に対する指導方法の支援を行う。	派遣回数	回	250	297	119%	A	学校からの要請件数が少なかったため、派遣回数が減となった。	250	338	135%	A	地域移行種目の増（R5：1種目、R6：6種目）のほか、一部競技において平日の派遣依頼に対応しているため前年度実績を上回った。	250	250	文スポ
4-1		(2)	学校部活動改革に伴う受け皿づくり	教員の働き方の見直し等を踏まえた取り組みのひとつとして、休日における部活動を地域に移行する。	地域移行した部活動数	個	1	1	100%	A	1つの部活動について試験的に実施したが、生徒・保護者・教員からも概ね好評であった。	6	6	100%	A	前年度からの分も含め、地域移行した種目数は計6種目となり、概ね順調に進んでいる。	6	13	文スポ
4-2	○	(2)	スポーツ協会補助事業	村民の健康保持増進の向上、各種運動競技の普及発展、スポーツ精神の涵養、レクリエーション的スポーツの奨励等を図るため、東海村スポーツ協会に対して補助金を交付する。	登録者数	人	2,400	2,525	105%	A	登録者数は前年度を若干下回ったものの、目標値は上回った。	2,400	2,439	101%	A	少子・高齢化等の影響により、全体の登録者数は前年度を90名近く下回った。	2,400	2,400	文スポ
4-2	○		スポーツ少年団補助事業	スポーツを通じた青少年の豊かな心と健全な身体育成を図るため、東海村スポーツ少年団に補助金を交付する。	団員数	人	700	723	103%	A	団員数は前年度を若干下回ったものの、目標値は上回った。	700	683	98%	A	少子化等の影響により団員数が減少した。	700	700	文スポ
4-2	○		スポーツ大会出場奨励事業	地域におけるスポーツの振興及びスポーツによる地域の活性化を図るため、県大会等を経て出場する全国大会や国際大会に出場する方へ、会場別別に一定額の奨励金を交付する。	申請件数	件	15	29	193%	A	実績値は登録者数は前年度を若干下回ったものの、目標値は上回った。	15	35	233%	A	エアロビ、ホッケー、陸上、女子サッカー等において上位大会への進出があったため、前年度実績を上回った。	15	15	文スポ
4-2	○	(1)	スポーツきっかけづくり「Be：スポーツ」推進事業	村民の健康づくり・運動習慣づくりに対する意識の転換・啓発を図るため、気軽にスポーツに親しめる体験教室やイベントを開催する。 ①運動遊び教室 運動が苦手な子どもたちに対し、遊びの中から身体を動かす楽しさを知ってもらうことを目的とした教室。 ②スポーツフェスタTOKAI 子どもから大人まであらゆる世代が、楽しみながら気軽に、運動に親しむきっかけづくりとして開催するスポーツイベント。	スポーツフェスタTOKAI参加者数	人	800	1,139	142%	A	どちらのイベントも、前年度の振り返りを踏まえて事業計画を組み立てており、特にスポーツフェスタTOKAIは、初めての試みとして目玉のグッズを用意するなどした結果、大幅な来場者増につなげることができた。	800	1,234	154%	A	新たな企画の実施や、協賛商品を充実させるなどした結果、実績値は目標を上回った。	800	900	文スポ
4-2		(2)	ニュースポーツ教室の定期開催	運動・スポーツの「きっかけづくり」を「習慣化」につなげ、住民が運動・スポーツを自分ごととして捉えることを目標とする。	開催回数	回	14	19	135%	A	関係団体、関係施設からの協力のほか、経験者からの口コミなどにより、開催回数がさらに増え、目標を達成することができた。	15	16	107%	A	開催回数は前年度を下回ったものの、開催回数は目標を上回ることができた。	19	20	文スポ
4-2 5-1	○	(2) (3)	東海村文化・スポーツ振興財団補助事業	本村の文化・スポーツの振興を目的として設立された（公財）東海村文化・スポーツ振興財団が行う文化及びスポーツ事業の推進を支援する。	文化・スポーツ事業自主事業数	事業	20	26	130%	A	コロナの感染症法上の分類の変更により、催事を実施する際の様々な規制を解除したため、事業数が増となった。	20	25	125%	A	最低催行人数に達しなかったため、実施できなかったイベントが複数あったことから、実績値は前年度を下回った。	20	20	文スポ
5-1	○	(2)	文化祭開催事業	多くの村民に作品の展示や練習成果の発表の場、鑑賞の機会を提供するため、実行委員会を組織し、自主的な企画運営により文化祭を開催する。	来場者数	人	6,500	11,683	180%	A	コロナの感染症法上の分類の変更により、入場規制を解除したため、来場者数が増となった。	6,500	8,372	129%	A	荒天により中止になったイベントがあったため、来場者数も前年度を下回った。	7,000	7,000	文スポ
5-1	○	(2)	文化協会補助事業	村内の芸術文化団体によって構成され、本村の芸術・文化の発展に寄与する事業を展開する東海村文化協会の運営及び事業に対して、費用の一部を補助する。	会員数	人	1,300	1,070	80%	A	会員数は微減が続いているが、活動への影響が及ぶレベルではない。	1,300	1,044	80%	A	連盟加盟団体が1団体減少したことに伴い、会員数も微減となった。	1,300	1,300	文スポ
5-2			野外彫刻、稲村退三作品等の適切な管理・活用	彫刻、絵画の適切な維持管理及び保護	作品管理数	点	370	370	100%	A	前年度同様の取り組みにより、引き続き問題なく管理することができた。	370	370	100%	A	関係者による定期的なメンテナンスを行いながら、適切に維持管理がなされた。	370	370	文スポ

東海村社会教育振興基本計画 評価シート 【図書館】

事業			実績							実績							令和6年度 中間値	令和8年度 最終値	担当G
該当 施策	教育プラン 該当	リーディング プラン№	事業及び取組み項目	事業概要説明	目標指標	単位	令和5年度				令和6年度								
							目標値	実績値	達成率 (%)	自己評価	目標値	実績値	達成率 (%)	自己評価					
6-1			電子図書館の導入	図書館来館が困難な方でも、「いつでもどこでも電子書籍に触れられる」よう「電子図書館」の導入を検討する（R4）。業者選定等を行い、「電子図書館」を導入する。（R5）	（R4）検討の実施 （R5）導入	-				A	目標を達成。入札等で契約業者を選定。令和5年10月に運用開始。				A	目標を達成。令和6年度も継続して電子図書館サービスの提供をしている。			図書館
6-2			図書館に関する情報発信	図書館職員のおすすめの本を、テーマごとに、毎月図書館HPで紹介する。	おすすめの本の紹介	回	12	12	100%	A	目標を達成。図書館職員おすすめ本を12回紹介することができた。	12	12	100%	A	目標を達成。図書館職員おすすめ本を12回紹介することができた。	12	12	図書館
6-3	○		読書推進事業（出張）	読書に親しむ機会を作るために、図書館外でおはなし会、読書についての講話、本の貸出などを行う事業。	出張図書館・出前講座等の実施	回	4	10	250%	A	目標を達成。幼稚園等からの依頼により「出張図書館」等を10回実施。	5	11	220%	A	目標を達成。幼稚園等からの依頼により「出張図書館」等を11回実施。	5	6	図書館
6-3	○		学校配送便の実施	学校図書館の依頼により、図書館資料の配送および返却資料の受け取りを学校に訪問、実施する。	学校配送便の延べ配送回数（学校からの依頼による）	回	100	135	135%	A	目標を達成。村内小中学校からの依頼により、各校への配送を延べ「135回」各校への配送を実施。	100	156	156%	A	目標を達成。村内小中学校からの依頼により、各校への配送を延べ「156回」各校への配送を実施。	100	100	図書館
6-3	○		学校への団体貸出	児童・生徒への読書の推進、学校図書館での貸出資料の充実、調べ学習で使用する資料の補完などの目的で、学校に対し1回上限300冊まで3か月間本を貸し出す事業。	のべ貸出冊数	冊	4,000	3,518	88%	A	概ね目標を達成。学校図書館指導員等から、資料のニーズ等を聞き取りながら、利用促進を目指す。	4,400	3,445	78%	A	概ね目標を達成しているが、年々微減傾向である。学校のニーズ等を聞き取りし、資料の充実を図り、利用促進を目指す。	4,400	4,800	図書館